

歯科医学総合講義 3 : 636-3-DP1・DP2・DP3・DP4・DP8

年次	学期	学則科目責任者
3年次	通年	3年次クラス担任主任

学修目標 (GIO) と単位数	<p>・単位数：2</p> <p>・学修目標 (GIO)：社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自立する自主創造型の歯科医師となるため、これまで講義や実習で学んだ内容と当該学年で学修する内容を統合し、松戸歯学部 of student doctorとして必要な態度・知識・技能を修得する。</p>
担当教員	三枝 禎、谷本 安浩、*有川 量崇、*内田 貴之、五十嵐 由里子、岡田 裕之、加藤 治、泉福 英信、*平山 聡司、*大久保 昌和、*小出 恭代、*久山 佳代、竹内 麗理、*伊藤 誠康、*鈴木 亜沙子、*小見山 道、*飯田 崇、*末光 正昌、*神尾 直人、*高井 英樹、*飯島 守雄、*徳永 悟士、*五十嵐 憲太郎、*小峯 千明
教科書	各科目の教科書を使用する。各科目の指定教科書については講義担当者に確認すること。
参考図書	歯科国試ANSWER2024 DES歯学教育スクール エムスリーエデュケーション
評価方法 (EV)	<p>定期試験の成績を評価点とする。定期試験の成績が正答率65%に満たない学生に対しては再試験を実施する。合格基準は65%とする。</p> <p>ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある学生は、再試験を受ける資格が与えられない。</p> <p>定期試験を欠席し追試験を希望する学生は、速やかに正当な理由を証明する書類を提出すること。審議の上、追試験の受験資格の有無を決定する。</p> <p>平常試験は2回行う。これらの成績は進級判定には算入しないが、共用試験受験が次の学年に近づいている自身の学修成果を測る好機として捉えること。平常試験の再試験は実施しない。</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	<p>当該学年は2年次に比べて臨床科目が多く配置されている。3年次において新しく学修する臨床科目および基礎科目の理解を深めるとともに、2年次配置科目に関する知識の継続性、連続性を保つことも重要である。そのため、3年次歯科医学総合講義3では、2年次科目の基本項目を振り返りながら、3年次の学修項目の総まとめを行う。</p> <p>3年次定期試験（総合試験）の合格基準は正答率65%であり、2年次総合試験にくらべて合格基準が高いことをしっかり意識して学修に取り組むこと。</p> <p>教科書および参考図書は、主に2年次および3年次の各科目で使用したものをを用いる。なお、解剖学については、1年次で使用した資料についても使用する。</p> <p>歯科医師の実務経験を活かし、歯科医学に関する専門的な知識・技能および態度について説明する。本講義は歯科医師国家試験問題を主な題材として、これまでの座学と実習で得た知識の定着を目指す。代表的な問題は繰り返し復習できるようにwebclassで公開を予定している。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/10 (水) 2時限 10:40~12:10	薬理学 1	<p>【授業の一般目標】 薬理学1の学修を振り返り、歯科医師として薬物を有効かつ安全に使用するために備えるべき薬理学の知識を確実に身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学1の学修項目を挙げられる。 2. 薬理学1の各学修項目の要点を簡潔に説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：薬理学1の学修項目を挙げ、要点を簡潔に説明できる。 事前学修時間：約60分 事後学修項目：授業時配布資料を用いた要点確認 事後学修時間：約60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 b 用量と反応 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/10 (水) 2時限 10:40～12:10	薬理学 1	C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ③薬理作用を規定する要因(用量と反応、感受性)を説明できる。 ④薬物の連用の影響(耐性、蓄積及び薬物依存)を説明できる。 ⑤薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。	三枝 禎
2024/04/17 (水) 2時限 10:40～12:10	衛生・公衆衛生学、 医学統計学/医療 行動科学 2	【授業の一般目標】 医療行動科学 2：全人的歯科医療を実施するために患者の権利と尊厳に関する知識を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 2. 医療プロフェッショナリズムについて説明できる。 3. 3. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 4. 4. インフォームド・コンセントの定義と重要性を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：①プロフェッショナリズム ②インフォームド・コンセント 事前学修時間：医療行動科学 2：40分 事後学修項目：医療行動科学 2：講義配布資料の項目について復習する。 事後学修時間：40分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布など 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 201教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理 b 医療者の倫理 (ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など) 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ②医の倫理に関する規範・国際規範 (ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等)を概説できる。	*有川 量崇 *内田 貴之
2024/04/24 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科材料学 1	【授業の一般目標】 歯科生体材料・歯科材料、器械を適切に使用するために、それらの種類、組成、性質、用途および取り扱い法について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 金属材料、高分子材料、セラミック材料および複合材料の性質について説明できる。 2. 歯科生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的性質について説明できる。 3. 応力-ひずみ曲線について説明できる。 4. 印象材の種類、組成および性質について説明できる。 5. 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。 6. 歯科用金属材料の種類、組成および性質について説明できる。 7. 合着材・接着用材料の種類、組成および性質について説明できる。 8. 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科生体材料・歯科材料の素材別による基本的性質について教科書および配布プリントを確認する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：配布したプリントを中心に、歯科材料の基本的性質から歯科臨床における用途について整理する。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 201教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/24 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科材料学 1	<p>ア 材料の種類 a 有機材料 b 無機材料 c 金属材料 d 複合材料 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 c 印象用材料・機器 d 模型用材料、フックス e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 h 装着用材料、接着処理</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 ②材料の物理的（力学的性質と熱的性質を含む）、化学的（溶解性を含む）、生物学的（生体活性、副作用を含む）性質とその評価法を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	谷本 安浩
2024/05/01 (水) 2時限 10:40～12:10	歯の解剖学・解剖学①	<p>【授業の一般目標】 臨床および関連科目を学ぶために必要な歯の形態を説明できる。 上顎骨と下顎骨の形態を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 歯の種類と記号を説明できる。 2. ミュールライターの三徴・左右の鑑別を説明できる。 3. 歯根と歯髓の構造を説明できる。 4. 歯の異常形質を説明できる。 5. 乳歯と永久歯の違いを説明できる。 6. 上顎骨と下顎骨の形態を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯の解剖学総論を復習する。上顎骨と下顎骨の形態を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義内容を復習する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 5 歯と歯周組織の構造 ア 歯の形態 a 基本事項</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ①人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。</p>	五十嵐 由里子
2024/05/08 (水) 2時限 10:40～12:10	組織・発生学①	<p>【授業の一般目標】 2年次で学修した組織・発生学を復習し、理解し、各項目を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 細胞を説明できる。 2. 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織を説明できる。 3. 脈管系、血液と骨髄およびリンパ性器官を説明できる。 4. 各器官系を説明できる。 5. 皮膚を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書やレジュメにて、本講義の内容を把握する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：講義で学修した項目を、教科書やレジュメと照らし合わせ、修得する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p>	岡田 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/08 (水) 2時限 10:40～12:10	組織・発生学-①	<p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 [上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長 ①人体の正常な個体発生と器官発生を説明できる。 C-3-3) 組織、器官及び個体の老化 ②老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (1) 上皮組織と皮膚・粘膜系 ①上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ①人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ①筋組織の分類と分布を説明できる。</p>	岡田 裕之
2024/05/15 (水) 2時限 10:40～12:10	生理学-①	<p>【授業の一般目標】 機能系基礎医学である生理学の理解を深めるために、一般生理学に総復習を行い全体の流れを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 生体の恒常性を説明できる。 2. 循環呼吸の調節を説明できる。 3. 自律神経調節を説明できる。 4. 内分泌調節を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年生で配布したプリントの総復習 準備学修時間：1時間 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (5) 神経系 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ②恒常性維持と内分泌系・神経系の機能相関を説明できる。 C-3-4) - (8) 呼吸器系 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ②血液循環 (肺循環、体循環及び胎児循環) の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。</p>	加藤 治
2024/05/22 (水) 2時限 10:40～12:10	微生物・免疫学	<p>【授業の一般目標】 微生物と感染症の関連性および免疫の仕組みを学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 細菌, 真菌およびウイルスの基本的性状を説明できる。 2. 細菌, 真菌およびウイルスによる感染症について説明できる。 3. 自然免疫・獲得免疫について説明できる。 4. アレルギーについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：細菌、真菌およびウイルスと感染症、自然免疫、獲得免疫およびアレルギー 準備学修時間：60分 事後学修項目：講義内容について復習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p>	泉福 英信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/22 (水) 2時限 10:40～12:10	微生物・免疫学	<p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。</p>	泉福 英信
2024/05/29 (水) 2時限 10:40～12:10	薬理学2-①	<p>【授業の一般目標】 薬理学1・2の学修を振り返り、歯科医師として薬物を有効かつ安全に使用するために備えるべき薬理学の知識を確実に身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 薬理学1のほか、薬理学2のこれまでの学修項目を挙げられる。 2. 薬理学1のほか、薬理学2のこれまでの各学修項目の要点を簡潔に説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：薬理学1のほか薬理学2のこれまでの学修項目を挙げ、要点を簡潔に説明できる。 事前学修時間：約60分 事後学修項目：授業時配布資料を用いた要点確認 事後学修時間：約60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む) b 薬物動態 c 薬物投与 (連用と併用を含む) 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 c 薬物動態 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 f 止血薬、抗血栓薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 ④薬物の連用の影響 (耐性、蓄積及び薬物依存) を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。</p>	三枝 禎
2024/06/05 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科材料学2	<p>【授業の一般目標】 歯科生体材料・歯科材料、器械を歯科臨床で適切に使用するため、それらが歯科医療に果たす役割について理解し、歯科材料の性質、成形法および臨床における応用に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 歯科精密鑄造の原理と鑄造欠陥の発生原因およびその対策について説明できる。 2. 義歯材料の種類、組成および性質について説明できる。 3. 歯内療法材料の種類、組成および性質について説明できる。 4. 予防歯科材料の種類、組成および性質について説明できる。 5. 組織工学用膜材料の種類、組成および性質について説明できる。 6. 歯科インプラント用材料および骨補填材料の種類、組成および性質について説明できる。 7. 歯科矯正用材料の種類、組成および性質について説明できる。</p>	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/05 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科材料学2	<p>8. 歯科接着技術における歯質、金属およびセラミックスの被着面処理法について説明できる。</p> <p>9. 歯科用CAD/CAMの特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科生体材料・歯科材料の基本的性質と歯科臨床における用途の関連について教科書および配布プリントを確認する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：配布したプリントを中心に、歯科材料の基本的性質から歯科臨床における用途について整理する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 g 成形技術・機器</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 7 成形技術・機器 ウ 金属材料の成形技術・機器 a 鋳造工程 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 f 歯冠修復・義歯用材料 e 成形修復・予防填塞・歯内療法用材料 j 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料 i 歯科矯正用材料 h 装着用材料、接着処理 b 診療用器械、切削・研削工具・研磨材</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 ① 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の所要性質と用途を説明できる。 ③ 診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ① 成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ② 歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③ 接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ④ 歯科矯正用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ⑤ 口腔インプラント・口腔外科・歯周治療用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ⑥ 歯内療法用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	谷本 安浩
2024/06/12 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔衛生学①	<p>【授業の一般目標】 口腔衛生学で学修した歯・口腔の健康と予防を理解し、各ライフステージの予防歯科サービスの基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔清掃法について理解できる。 2. 歯磨剤と洗口剤について説明できる。 3. 齲蝕の予防について理解できる。 4. ライフステージごとの口腔保健管理について理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目 準備学修時間：30分 事後学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目 事後学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略（LS）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅰ 保健・医療と健康増進 1 健康の保持・増進と社会保障 イ 口腔と全身の健康増進 b 健康教育・学習、保健指導、健康相談</p> <p>【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-3 予防と健康管理</p>	*有川 量崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/12 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔衛生学－①	<p>B-3-1) 予防の概念 ①疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。 ②プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。 ③プライマリ・ケアとヘルスプロモーションを説明できる。 ④感染性疾患と非感染性疾患の予防の違いを説明できる。</p> <p>B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理 ①主な歯科疾患（齲蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。 ②齲蝕予防における予防填塞及びフッ化物の応用方法を説明できる。 ③ブラークコントロールの意義と方法を説明できる。 ④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。 ⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。</p>	*有川 量崇
2024/06/19 (水) 2時限 10:40～12:10	放射線学－①	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として適切な画像検査や放射線管理ができるようになるために、良性腫瘍、嚢胞、悪性腫瘍、炎症を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.1.放射線について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：3年次で学んだ「放射線学」の範囲の復習を行う。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：3年次で学んだ「放射線学」の範囲の理解を深める。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有、予習30分</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (3) 炎症 ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 E-2-4) (2) 外傷 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	*徳永 悟士
2024/06/26 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科保存学1・保存修復学	<p>【授業の一般目標】 3年次前期で学修した保存修復学の知識を深化させるために、硬組織疾患の検査法と診断に基づいて適切な間接修復法を選択し、術式に沿ってその処置に必要な前準備、必要な器具およびその手技の目的について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.歯の硬組織疾患の診断に必要な検査法の種類とその目的について説明する。 3.歯の硬組織疾患の鑑別診断ができる。 4.歯の硬組織疾患に応じた適切な修復法を選択する。 5.直接・間接修復法の種類とその術式を説明する。 6.歯の硬組織疾患の修復に必要な前準備を説明する。 7.歯の硬組織疾患の修復に必要な器具についてその使用方法を説明する。 8.歯の硬組織疾患に対する修復処置の目的を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：①歯の硬組織疾患の種類とその原因、②間接修復法の窩洞の特徴と術式 準備学修時間：60分 事後学修項目：配布プリントの見直し 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 学修媒体：配布プリント、マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 c tooth wear (歯の損耗)</p>	*小峯 千明 *平山 聡司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/26 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科保存学1・保存修復学	<p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齶蝕の病因 b 間接修復法</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器(歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)の特性と用途 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防充填用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患(tooth wear(酸蝕症、咬耗、摩耗等)、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む)の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3)-(1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ①齶蝕その他の歯の硬組織疾患(tooth wear(酸蝕症、咬耗、摩耗等)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む)の症状、検査法、診断及び処置法(再石灰化療法を含む)を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ④修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。</p>	*小峯 千明 *平山 聡司
2024/07/03 (水) 2時限 10:40～12:10	歯科補綴学1・有床義歯補綴学-① PD:問題演習(予習範囲含む)	<p>【授業の一般目標】 咬合・咀嚼障害の病因および病態の適切な診断とそれに伴う機能・形態・心理社会的障害の回復を目的とした治療計画の立案および処置を行うために必要な有床義歯補綴学に関する知識・技能および態度を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 歯列部分欠損の病態を説明できる。 2. 局部床義歯治療のために行う検査を列挙できる。 3. サペイングの目的と手順を説明できる。 4. 可撤性部分床義歯の設計の原則を説明できる。 5. 可撤性部分床義歯の支持・把持・維持性能について説明できる。 6. 口腔内前処置を定義できる。 7. 歯根膜負担、粘膜負担、歯根膜粘膜負担義歯について説明できる。 8. 局部床義歯のフレームワークを説明できる。 9. 局部床義歯の直接支台(維持)装置について説明できる。 10. 局部床義歯のアタッチメントについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目:補綴学1の資料の見直し 事前学修時間:60分 事後学修項目:配布プリント 事後学修時間:60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:有 学修媒体:マルチメディア、プリント配布など</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 ア 義歯の設計 b 義歯の構成要素</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯) ②可撤性義歯の種類、目的及び意義を説明できる。 ③可撤性義歯の特徴と適応症を説明できる。 ④可撤性義歯の要素構成と支持、把持、維持の機構を説明できる。 ⑤可撤性義歯の設計原則を説明できる。 ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。</p>	*小出 恭代 *大久保 昌和
2024/07/10 (水) 2時限 10:40～12:10	病理学	<p>【授業の一般目標】 病理学総論の概念を理解し、6大病変の病態を修得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 病因論(外因と内因)を説明できる。 3. 6大病変に分類し、代表的な疾患名を列挙できる。 4. 適応の概念を説明できる。 5. 代謝障害を説明し、分類できる。 6. 循環障害の基本的な用語を説明できる。 7. 炎症の病理学的経過と特徴を説明できる。</p>	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/07/10 (水) 2時限 10:40～12:10	病理学	<p>8. 腫瘍の概念、分類、基本用語を説明できる。 9. 先天異常の分類と代表的疾患を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 【準備学修項目】 病理学で学んだ学修項目 【準備学修時間】 30分 【事後学修項目】 不得手な疾患の分類と病理組織像を確認する。 【準備学修時間】 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングによる能動的学修：なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*久山 佳代
2024/07/17 (水) 2時限 10:40～12:10	薬理学2-②	<p>【授業の一般目標】 薬理学1・2の学修を振り返り、歯科医師として薬物を有効かつ安全に使用するために備えるべき薬理学の知識を確実に身につける。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 薬理学1のほか、薬理学2のこれまでの学修項目を挙げられる。 2. 薬理学1のほか、薬理学2のこれまでの各学修項目の要点を簡潔に説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：薬理学1のほか薬理学2のこれまでの学修項目を挙げ、要点を簡潔に説明できる。 事前学修時間：約60分 事後学修項目：授業時配布資料を用いた要点確認 事後学修時間：約60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用（薬力学、主作用および副作用を含む） b 薬物動態 c 薬物投与（連用と併用を含む） 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴 c 薬物動態 e 薬物適用の注意 c 抗微生物薬 d 抗腫瘍薬 e 代謝改善薬、ビタミン f 止血薬、抗血栓薬</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	三枝 禎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/07/17 (水) 2時限 10:40～12:10	薬理学2-②	C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。 ②毒薬、劇薬及び麻薬等の表示と保管を説明できる。 ③日本薬局方を説明できる。 C-6-4) 薬物の副作用と有害作用 ①薬物の一般的副作用と有害事象を説明できる。 ②薬剤耐性(antimicrobial resistance <AMR>)に配慮した適切な抗菌薬使用を説明できる。	三枝 禎
2024/08/21 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験-①	【授業の一般目標】 前期15回の講義内容に対する理解度の確認を行う。 形成的評価であり、進級判定には用いない。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：これまでの講義内容、配布資料を復習する。 準備学修時間：前期を通じて 事後学修項目：平常試験における苦手科目、内容を抽出した全内容 事後学修時間：定期試験（総合試験）まで 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：試験問題用紙配布 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 201教室	谷本 安浩 三枝 禎 *有川 量崇 *内田 貴之 五十嵐 由里子 岡田 裕之 加藤 治 泉福 英信 *平山 聡司 *大久保 昌和 *小出 恭代 *久山 佳代 竹内 麗理 *伊藤 誠康 *鈴木 亜沙子 *小見山 道 *飯田 崇 *末光 正昌 *神尾 直人 *高井 英樹 *飯島 守雄 *徳永 悟士 *小峯 千明 *五十嵐 憲太郎
2024/09/12 (木) 1時限 09:00～10:30	生化学	【授業の一般目標】 機能系基礎医学である生化学の理解を深めるために、全般的に総復習を行い全体の流れを学習する。 【行動目標（SBOs）】 1.炎症の機序を説明できる。 2.細胞外基質を説明できる。 3.唾液の成分と機能を説明できる。 4.歯の硬組織の組成と機能を説明できる。 5.齶蝕の成り立ちを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年生で配布したプリントの総復習 準備学修時間：2時間 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解度を確認する。 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 201教室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子的基盤 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能、合成と分解を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑤唾液の性状、構成成分及び機能を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ④口腔細菌、プラーク（口腔バイオフィーム）及び歯石を説明できる。	竹内 麗理
2024/09/19 (木) 1時限 09:00～10:30	歯の解剖学・解剖学-②	【授業の一般目標】 咀嚼筋、舌骨上筋について説明できる。 口腔、咽頭、鼻腔について説明できる。 【行動目標（SBOs）】 1.咀嚼筋について説明できる。 2.舌骨上筋について説明できる。 3.口腔の内蔵について説明できる。 4.咽頭の構造について説明できる。 5.鼻腔の構造について説明できる。	五十嵐 由里子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/09/19 (木) 1時限 09:00～10:30	歯の解剖学・解剖学-②	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：咀嚼筋、舌骨上筋、口腔、咽頭、鼻腔について復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義内容を復習する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 ウ 頭頸部の筋系 b 咀嚼筋</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ①頭頸部の体表と内臓の区分と特徴を説明できる。 ③咀嚼筋、表情筋及び前頸筋の構成と機能を説明できる。</p>	五十嵐 由里子
2024/09/26 (木) 1時限 09:00～10:30	組織・発生学-②	<p>【授業の一般目標】 2年次の学修した口腔組織学を復習し、その内容を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 顔面と口腔を発生を説明できる。 2. 顎骨および顎関節の発生と微細構造を説明できる。 3. 歯の発生を説明できる。 4. エナメル質、象牙質、歯髄およびセメント質の微細構造を説明できる。 5. 歯根膜、歯槽骨および歯肉の微細構造を説明できる。 6. 口腔粘膜および唾液腺の微細構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書やレジュメにて、本講義の内容を把握する。 事前学修時間：60分 事後学修項目：講義で学修した項目を、教科書やレジュメと照らし合わせ、修得する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の発生・成長・発達・加齢変化 ア 人体の発生 a 生殖形成、排卵、受精、着床、二層性胚盤、三層性胚盤、胚子期、胎児期</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-2) 組織、器官及び個体の発生と成長 ①人体の正常な個体発生と器官発生を説明できる。 C-3-3) 組織、器官及び個体の老化 ②老化に伴う細胞、組織、器官及び個体の形態的・機能的な変化を概説できる。 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。</p>	岡田 裕之
2024/10/03 (木) 1時限 09:00～10:30	生理学-②	<p>【授業の一般目標】 機能系基礎医学である生理学の理解を深めるために、口腔生理学の総復習を行い全体の流れを学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔体性感覚（痛覚、触圧覚）の伝導路を説明できる。 2. 特殊感覚（味覚）と味物質を説明できる。 3. 嚥下調節を説明できる。 4. 唾液腺と唾液分泌を説明できる。 5. 咀嚼における顎反射を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：2年生で配布したプリントの総復習 準備学修時間：1時間 事後学修項目：復習プリントで講義内容の理解を確認する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア、プリント配布</p>	加藤 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/03 (木) 1時限 09:00～10:30	生理学-②	<p>【学修方略 (LS)】 演習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 4 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 [骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系]</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (6) 感覚器系と感覚 ①特殊感覚器の構造と特殊感覚を説明できる。 ④疼痛の種類、発生機序及び制御機構を説明できる。 C-3-4) - (9) 内分泌系とホメオスタシス ④摂食調節の機序を説明できる。</p>	加藤 治
2024/10/10 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・有床義歯補綴学-② CD: 問題演習 (予習範囲含む)	<p>【授業の一般目標】 咬合・咀嚼障害の病因および病態の適切な診断とそれに伴う機能・形態・心理社会的障害の回復を目的とした治療計画の立案および処置を行うために必要な有床義歯補綴学に関する知識・技能および態度を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 全部床義歯の構成要素を列挙できる。 2. 無歯顎者に対する治療法を説明できる。 3. 印象採得の種類と方法を説明できる。 4. 個人トレーの目的を説明できる。 5. 無歯顎の咬合採得する下顎位と咬合採得法を説明できる。 6. 無歯顎の下顎運動の記録法と咬合器の調節を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 講義プリント復習 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: 演習問題復習 事後学修時間: 1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 有 学修媒体: マルチメディア、プリント配布など</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 a 前処置</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 b 印象採得</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (2) 可撤性義歯 (部分床義歯、全部床義歯) ⑥可撤性義歯製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。 ⑦歯の欠損した歯列での下顎位・下顎運動の記録法を説明できる。 ⑧調節性咬合器の基本的操作方法、フェイスボウトランスファー、チェックバイト法を説明できる。</p>	*鈴木 亜沙子
2024/10/17 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・クラウンブリッジ補綴学-①	<p>【授業の一般目標】 適切な咬合・咀嚼障害の診断と機能回復を目的とした治療計画及び処置が行えるために必要な補綴学に関する知識・技能および態度を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. クラウンの種類と特徴、適応症を説明できる。 3. クラウン製作に関する診療の流れについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学習項目: 教科書の関連項目を学修する。 ・事前学習時間: 30分 ・事後学習項目: 授業で配布した資料を基に教科書を用いて知識の構築を図る。 ・事後学習時間: 90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 学修媒体: マルチメディア, 配付プリント, 教科書</p>	*小見山 道 *飯田 崇

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/17 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・クラウンブリッジ補綴学①	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 2 診察、検査、診断 エ 治療計画の立案</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療 ①クラウンブリッジの意義と具備条件を説明できる。 ②クラウンブリッジの種類、特徴及び製作法 (CAD/CAM を含む) を説明できる。</p>	*小見山 道 *飯田 崇
2024/10/24 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔病理学①	<p>【授業の一般目標】 口腔病理学で学修した疾患の理解を深めるため、病院、病態および典型的な病理組織像を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 腫瘍及び腫瘍様病変の病理組織像を説明できる。 3. 顎口腔領域に異常を生じる全身疾患及び症候群を説明できる。 4. 唾液腺の非腫瘍性病変を説明できる。 5. う蝕と歯周疾患に関する病理組織像を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔病理学で学んだ学習項目 事前学修時間：60分 事後学修項目：不得手な疾患の病理組織像を確認する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：スマートフォンを介したGoogle formによるリアルタイム集計と解説</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齶蝕の病因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の病因と病態を説明できる。 ②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ③歯周疾患の病因と病態を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*末光 正昌
2024/10/31 (木) 1時限 09:00～10:30	放射線学	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として適切な画像検査や機器管理ができるようになるために、各種撮影法の原理や特徴および読影を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 各種撮影法の原理を説明できる。 2. 放射線の影響と防護を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 3年次で学んだ「放射線学」の範囲の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有, 予習30分</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 検査・臨床判断の基本 カ 画像検査 d エックス線撮影 (口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影)</p>	*徳永 悟士

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/31 (木) 1時限 09:00～10:30	放射線学	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-2) 画像検査を用いた診断</p> <p>①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。</p> <p>②放射線の人体（胎児を含む）への影響の特徴（急性影響と晩発影響等）を説明できる。</p> <p>③放射線防護の基準と方法を説明できる。</p> <p>④エックス線画像の形成原理（画像不良の原因を含む）を説明できる。</p> <p>⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。</p> <p>⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。</p> <p>⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。</p> <p>⑧顔頸面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。</p> <p>⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*徳永 悟士
2024/11/14 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔衛生学②	<p>【授業の一般目標】</p> <p>予防歯科学で学修した歯・口腔の健康と予防を理解し、各ライフステージの予防歯科サービスの基本的な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔清掃法について理解できる。 2. 歯磨剤と洗口剤について説明できる。 3. 齲蝕の予防について理解できる。 4. ライフステージごとの口腔保健管理について理解できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>準備学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目</p> <p>準備学修時間：30分</p> <p>事後学修項目：予防歯科学で学んだ学修項目</p> <p>事後学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングによる能動的学修、301教室その他</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>201教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論 I 保健・医療と健康増進</p> <p>2 ライフステージ別にみた保健・福祉</p> <p>ア 母子保健、母子歯科保健と児童福祉</p> <p>a 現状、動向</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>B 社会と歯学</p> <p>B-3 予防と健康管理</p> <p>B-3-1) 予防の概念</p> <p>①疾病の自然史と第一次、第二次及び第三次予防を説明できる。</p> <p>②プロフェッショナルケア、セルフケア及びコミュニティケアを説明できる。</p> <p>③プライマリ・ケアとヘルスプロモーションを説明できる。</p> <p>④感染性疾患と非感染性疾患の予防の違いを説明できる。</p> <p>B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理</p> <p>①主な歯科疾患（齲蝕、歯周疾患、不正咬合）の予防を説明できる。</p> <p>②齲蝕予防における予防填塞及びフッ化物の応用方法を説明できる。</p> <p>③ブラークコントロールの意義と方法を説明できる。</p> <p>④ライフステージに応じた歯科疾患の予防を説明できる。</p> <p>⑤歯科疾患のリスク因子を説明できる。</p>	*有川 量崇
2024/11/21 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・有床義歯補綴学③ 有床15：問題演習（予習範囲含む）	<p>【授業の一般目標】</p> <p>咬合・咀嚼障害の病因および病態の適切な診断とそれに伴う機能・形態・心理社会的障害の回復を目的とした治療計画の立案および処置を行うために必要な有床義歯補綴学に関する知識・技能および態度を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工歯の種類を列挙し、選択基準を述べることができる。 2. 部分歯列欠損および無歯顎者に対する咬合様式を説明できる。 3. 両側性咬合平衡について説明できる。 4. 有床義歯の人工歯排列方法を列挙できる。 5. 有床義歯の歯肉形成について説明できる。 6. ろう義歯試適時の診査項目を説明できる。 7. 有床義歯の埋没操作法を列挙し重合法を説明できる。 8. 完成義歯の検査材料を述べることができる。 9. 完成義歯の装着時の診察項目を列挙できる。 10. 義歯装着後の生体の変化とその対応について説明できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目：</p> <p>事前学修時間：</p> <p>事後学修項目：</p> <p>事後学修時間：</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：有無</p> <p>学修媒体：マルチメディア、プリント配布など</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p>	*五十嵐 憲太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/11/21 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・有床義歯補綴学-③ 有床15:問題演習(予習範囲含む)	201教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 イ 臨床操作 e 装着 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害 4 部分床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録 d 試適(ろう義歯、フレームワーク) 5 全部床義歯による治療 イ 臨床操作 c 顎間関係の記録 d ろう義歯の試適 e 装着 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4 歯質と歯の欠損の診断と治療 E-3-4)-(2) 可撤性義歯(部分床義歯、全部床義歯) ⑨人工歯の選択を説明できる。 ⑩可撤性義歯の咬合様式とその意義を説明できる。 ⑪可撤性義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 ⑫可撤性義歯の製作過程を説明できる。 ⑬可撤性義歯の装着、調整を説明できる。 ⑭可撤性義歯のメンテナンス、リライン及び修理を説明できる。	*五十嵐 憲太郎
2024/11/28 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科保存学1・保存修復学	【授業の一般目標】 3年次後期で学修した保存修復学の知識を深化させるために、硬組織疾患の検査法と診断に基づいて適切な直接・間接修復法を選択し、術式に沿ってその処置に必要な前準備、必要な器具およびその手技の目的について理解する。 【行動目標(SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯の硬組織疾患の診断に必要な検査法の種類とその目的について説明する。 3. 歯の硬組織疾患の鑑別診断ができる。 4. 歯の硬組織疾患に応じた適切な修復法を選択する。 5. 直接・間接修復法の種類とその術式を説明する。 6. 歯の硬組織疾患の修復に必要な前準備を説明する。 7. 歯の硬組織疾患の修復に必要な器具についてその使用方法を説明する。 8. 歯の硬組織疾患に対する修復処置の目的を説明する。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目:②コンポジットレジン修復に必要な前準備、器具、術式、③間接修復法の窩洞の特徴と術式 準備学修時間:60分 事後学修項目:配布プリントの見直し 事後学修時間:60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング:なし 学修媒体:配布プリント、マルチメディア 【学修方略(LS)】 講義 【場所(教室/実習室)】 201教室 【国家試験出題基準(主)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 a 直接修復法 【国家試験出題基準(副)】 歯科医学各論 各論II 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ウ 歯の硬組織疾患の治療 b 間接修復法 c 窩洞形成法 d 象牙質・歯髄保護法 e 補修修復 f 歯の漂白 【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器(歯科材料・器械・器具) D-1 歯科医療機器(歯科材料・器械・器具)の特性と用途 ③診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ①成形修復・予防填塞用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ②歯冠修復・義歯用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。 E 臨床歯学	*小峯 千明 *平山 聡司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/11/28 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科保存学1・保存修復学	E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 ①歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の病因と病態を説明できる。 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (1) 齶蝕その他の歯の硬組織疾患の診断と治療 ①齶蝕その他の歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む) の症状、検査法、診断及び処置法 (再石灰化療法を含む) を説明できる。 ③修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 ④修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 ⑥窩洞形成の意義と方法を説明できる。	*小峯 千明 *平山 聡司
2024/12/05 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科保存学1・歯周治療学	【授業の一般目標】 歯周疾患の病因と病態を理解し、その病因に対応した歯周病治療を学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 正常歯周組織を図説できる。 3. 歯周疾患の病因を説明できる。 4. 歯肉炎および歯周炎の病態を説明できる。 5. 歯周疾患のリスクファクターを列挙し、それに対応した歯周基本治療を選択、説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：正常歯周組織の図を確認し、歯肉炎および歯周炎における変化も確認する。 臨床歯周病学をもちいて、歯周疾患の病因 (リスクファクター) を確認する。 準備学修時間：60分 事後学修項目：歯周組織の組織学的構造を理解した上で、歯周疾患の病態を説明できるようにし、その病因とそれに適した歯周基本治療を選択、説明できるようにする。 事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 【アクティブラーニングの有無】 アクティブラーニング無 【学修媒体等】 歯科医師国家試験抜粋のプリント、解説およびパワーポイント、301教室 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 201教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 治療の基礎・基本手技 ケ 歯・歯周組織に対する基本的処置 d 歯周治療 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (3) 歯周疾患の診断と治療 ①歯周疾患の症状及び全身疾患との関連を説明できる (疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む)。 ②歯周疾患の検査法、診断及び治療方針 (メンテナンス法を含む) を説明できる。 ③歯周治療の術式と適応症を説明できる。	*高井 英樹
2024/12/12 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科保存学1・歯内療法学	【授業の一般目標】 歯内療法に関する知識をより深めるために、歯科治療における歯内療法の位置づけを明確にし、診断・治療の概要について統合的に理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯髄炎・根尖性歯周炎の病態について説明できる。 3. 歯髄保存療法について説明できる。 4. 歯髄除去療法について説明できる。 5. 感染根管治療について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：3年次の歯内療法全般 準備学修時間：1時間 事後学修項目：配布資料 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングなし パワーポイント 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 201教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 2 歯・歯周組織・咬合の治療 ア 基本的術式 b 歯内療法	*神尾 直人

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/12/12 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科保存学1・歯 内療法学	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因</p> <p>②歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態を説明できる。</p>	*神尾 直人
2024/12/19 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科補綴学1・ク ラウンブリッジ補 綴学②	<p>【授業の一般目標】</p> <p>適切な咬合・咀嚼障害の診断と機能回復を目的とした治療計画及び処置が行えるために必要な補綴学に関する知識・技能および態度を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。</p> <p>2. チェアサイドにおけるクラウン製作に関する診療の流れについて説明できる。</p> <p>3. クラウン製作に関する技工操作について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習項目: 教科書の関連項目を学修する。 ・事前学習時間: 30分 ・事後学習項目: 授業で配布した資料を基に教科書を用いて知識の構築を図る。 ・事後学習時間: 90分 <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング: 無</p> <p>学修媒体: マルチメディア, 配付プリント, 教科書</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学各論</p> <p>各論IV 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害</p> <p>3 クラウンブリッジによる治療</p> <p>ウ 技工操作</p> <p>a ロストワックス法による製作</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-3 歯と歯周組織の常態と疾患</p> <p>E-3-4) 歯質と歯の欠損の診断と治療</p> <p>E-3-4) - (1) クラウンブリッジによる治療</p> <p>④支台歯形成の意義と方法を説明できる。</p> <p>⑤クラウンブリッジ製作のための印象採得・咬合採得に用いる材料と方法を説明できる。</p> <p>⑥色調選択 (シェードテイキング) を説明できる。</p> <p>⑦プロビジョナルレストレーションの意義とその製作法を説明できる。</p> <p>⑧クラウンブリッジの製作に必要な材料の基本的操作を説明できる。</p> <p>⑨研究用模型と作業用模型の製作方法を説明できる。</p> <p>⑩クラウンブリッジの装着方法を説明できる。</p>	*小見山 道 *飯田 崇
2025/01/09 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔病理学②	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔病理学で学修した疾患の病因、病態、用語および典型的な病理組織像を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。</p> <p>2. 嚢胞の分類を述べ、病理組織像の鑑別ができる。</p> <p>3. 口腔粘膜感染症の病因を述べ、臨床病態および病理組織像を説明できる。</p> <p>4. 口腔粘膜疾患を分類し、病理組織像の鑑別ができる。</p> <p>5. 口腔上皮性・非上皮性腫瘍を分類し、病理組織像の鑑別ができる。</p> <p>6. 唾液腺腫瘍を分類し、病理組織像の鑑別ができる。</p> <p>7. 歯源性腫瘍を分類し、病理組織像の鑑別ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>【準備学修項目】 口腔病理学で学んだ学修項目</p> <p>【準備学修時間】 30分</p> <p>【事後学修項目】 不得手な疾患の分類と病理組織像を確認する。</p> <p>【準備学修時間】 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングによる能動的学修: なし</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>201教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>7 主要症候</p> <p>イ 口腔・顎顔面領域の症候</p> <p>a 一般的症候 [疼痛、腫脹、腫瘍、潰瘍、色調、出血、瘻、触診の異常 (硬さ、熱感を含む)、機能障害 (開口障害を含む)]</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常</p> <p>①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p> <p>①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/01/09 (木) 1時限 09:00~10:30	口腔病理学-②	E-2-4)-(5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 E-2-4)-(8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*久山 佳代
2025/01/16 (木) 1時限 09:00~10:30	平常試験-②	<p>【授業の一般目標】 後期15回の講義内容に対する理解度の確認を行う。 形成的評価であり、進級判定には用いない。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：これまでの講義内容、配布資料を復習する。 準備学修時間：後期を通じて 事後学修項目：平常試験における苦手科目、内容を抽出した全内容 事後学修時間：定期試験（総合試験）まで</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：試験問題用紙配布</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 201教室</p>	谷本 安浩 三枝 禎 *有川 量崇 *内田 貴之 五十嵐 由里子 岡田 裕之 加藤 治 泉福 英信 *平山 聡司 *大久保 昌和 *小出 恭代 *久山 佳代 竹内 麗理 *伊藤 誠康 *鈴木 亜沙子 *小見山 道 *飯田 崇 *末光 正昌 *神尾 直人 *高井 英樹 *飯島 守雄 *徳永 悟士 *小峯 千明 *五十嵐 憲太郎